

商業（ソフトウェア活用）

| | | | |
|-------|--|-----|----|
| 履修単位 | 4単位 | 学 年 | 2年 |
| 学科コース | 商業科 | 区 分 | 必修 |
| 使用教科書 | 7実教 商業736 ソフトウェア活用 | | |
| 副教材等 | 全商情報処理検定模擬試験問題集 ビジネス情報2級（実教出版） 全商情報処理検定模擬試験問題集 ビジネス情報1級（実教出版） 全商ビジネス文書実務検定 模擬試験問題集1級（実教出版） | | |

1. 科目を通じた学習内容と学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 授業を受けるにあたってのアドバイス

基本的技能や知識を理解し習得するだけでなく、それらを活用し工夫しながら学習する態度が不可欠です。

情報機器ならびに情報室は複数の生徒が使用します。丁寧に扱い、実習終了後の整理整頓を心がけて下さい。特に、不要物の持ち込みは機器故障の原因となります。常に清潔な環境で授業に取り組めるよう心がけましょう。

3. 科目を通じた評価の観点と評価方法

| 観点 | 知識・技能（技術） | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-----------------------|---|--|---|
| 観 点 の 趣 旨 | 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 | 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 | 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |
| 評 価 方 法 | 単元（小）テスト 定期考査 | 単元（小）テスト 定期考査 レポート・ワークシート 実習課題 | レポート・ワークシート 実習課題 授業の参加状況（発表等） 授業態度（取組状況） |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまり（単元）ごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 年間を通じた学習計画

(より詳細な「学習内容・ねらい」・「評価の観点・評価方法」等については、各単元の最初の授業等で説明します。)

知識・技能＝【知技】 思考・判断・表現＝【思判表】 主体的に学習に取り組む態度＝【態度】

| 学期 | 単元の学習内容 | 単元の学習目標 (ねらい) | 単元の評価規準 | 主な評価の観点 | | | 備考 |
|---------|---|---|--|---------|-----|----|----|
| | | | | 知技 | 思判表 | 態度 | |
| 1 学期 | 1章 企業活動とソフトウェア活用 1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考える学習活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 社会で利用されている情報システムの例や、ビジネスにおけるソフトウェアの活用の実例を学ぶことにより、情報通信ビジネスにおけるソフトウェア活用の重要性を理解する。 | <p>ソフトウェアの意義と重要性について考え、理解することができたか。</p> <p>情報通信システムの特徴や処理方式の概要を理解し、ソフトウェアの意義や役割を考え、具体的な利用例を理解することができたか。</p> <p>ネット通信ビジネスにおける情報通信システムに関心を持ち、各種決済システムなどの、ソフトウェアの意義や役割を考え、理解することができたか。</p> <p>観光ビジネスとソフトウェアの活用、各種センサとソフトウェアの関連などに関心を持ち、概要と目的を理解できたか。</p> <p>ビジネスにおけるソフトウェアの役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身に付けようとする態度を持ったか。</p> | ○ | ○ | ○ | |
| | 2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化 | <ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアの進化が、社会の変化に与える影響を考える学習活動により、関連する知識を身に付ける。 Society5.0が実現しようとしている社会について考察し、ソフトウェアの活用例と目的を理解する。 | <p>IoT, AI, BDについて理解するとともに、関連するソフトウェア技術の活用と社会課題について、その関連性を考察しようとしている。</p> <p>ソフトウェアの意義と社会課題について、様々な社会活動と関連付けてみいだせる。</p> <p>ソフトウェアとビジネスや社会課題との関連について自ら学び、適切に活用し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | |
| | 2章 情報通信ネットワークの活用 1節 情報通信ネットワークの導入と運用 | <ul style="list-style-type: none"> ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、それを活用するコンピュータやプリンタをLANやインターネットに接続するための基礎的な方法や、情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術を身に付ける。 | <p>ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、コンピュータやプリンタを適切にLANやインターネットに接続するための基礎的な方法や、情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術について理解している。</p> | ○ | ○ | ○ | |
| | 2節 情報資産の保護 | <ul style="list-style-type: none"> 情報資産を保護するため、ソフトウェアの脆弱性への対応や、無停電電源装置の活用などのリスクを適切に管理する方法について理解するとともに、情報を共有するためのファイルとフォルダのアクセス権の設定や、暗号化の種類、データのバックアップなどについての基本的な技術を身に付ける。 | <p>情報資産を保護するため、ソフトウェアの脆弱性への対応や、無停電電源装置の活用などのリスクを適切に管理する方法について理解し、情報を共有するためのファイルとフォルダのアクセス権の設定や、暗号化の種類、データのバックアップなどについての基本的な技術について理解している。</p> | ○ | ○ | ○ | |
| | 3章 表計算ソフトウェアの活用 1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 | <ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計や分析方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。 | <p>表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な方法で分析する能力を身に付けるとともに、分析結果を適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。</p> | ○ | ○ | ○ | |
| | 2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ | <ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎を理解し、目的に応じて適切な手法を活用する技術を身に付ける。 | <p>表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎について理解し、目的に応じて適切な手法を活用する技術を身に付けるとともに、適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。</p> | ○ | ○ | ○ | |
| | 3節 手続きの自動化 | <ul style="list-style-type: none"> マクロの記録機能を用いて、手続きの自動化の考え方を理解し、基本的な技術を身に付ける。 | <p>マクロの記録機能を用いた、手続きの自動化について理解し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。</p> | ○ | ○ | ○ | |

| | | | | | | | |
|------------------|--|---|--|---|---|---|---|
| 2 学 期 | 4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース | ・データベースの特徴や基本的な機能を理解する。 | データベースに関心を持ち、効果的な活用方法や役割などを説明できる思考が身に付いている。 | ○ | ○ | ○ | |
| | 2節 データベースの作成と操作 | ・データベースソフトウェアを活用するための知識と技術について理解する。 | データベースの演習に主体的な姿勢で取り組み、テーブル・クエリ・フォーム・レポート・リレーションシップの作成など、データベースソフトウェアの実践的活用のための知識と技術が身に付いている。 | ○ | ○ | ○ | |
| | 3節 手続きの自動化 | ・フォームを用い、手続きを登録する方法を理解する。 | ユーザーフォームにボタンを配置し、これまで作成したクエリやフォーム、レポートを呼び出すマクロに関する知識と技術が身に付いている。 | ○ | ○ | ○ | |
| | 4節 データベースの構造 | ・データベースの構造を理解する。また、表を正規化するための手順を理解する。 | データベースの表やデータ構造など基本的な知識を理解し、必要に応じた表の正規化ができる知識や思考が身に付いている。 | ○ | ○ | ○ | |
| | 5節 SQLの操作 | ・SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。 | SQLの演習について自発的に取り組み、SQLの文法を理解し、データベースを適切に操作する技術が身に付いている。 | ○ | ○ | ○ | |
| | 5章 業務処理用ソフトウェアの活用 1節 グループウェアの活用 | ・グループウェアを活用することの利点と、グループウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 | グループウェアに関する知識、技術を身に付け、企業活動の改善に対する業務の効率的な処理について、組織の一員としての役割を果たすため、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。 | ○ | ○ | ○ | |
| | 2節 販売管理ソフトウェアの活用 | ・販売管理ソフトウェアを活用することの利点と、販売管理ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 | 販売管理ソフトウェアに関する知識、技術を身に付け、企業活動の改善に対する業務の効率的な処理について、組織の一員としての役割を果たすため、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。 | ○ | ○ | ○ | |
| 3節 給与計算ソフトウェアの活用 | ・給与計算ソフトウェアを活用することの利点と、給与計算ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 | 給与計算ソフトウェアに関する知識、技術を身に付け、企業活動の改善に対する業務の効率的な処理について、組織の一員としての役割を果たすため、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。 | ○ | ○ | ○ | | |
| 3 学 期 | 6章 情報システムの開発 1節 システム開発の基礎 | ・情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について実務に即して理解するとともに、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発と関連付けて理解を深める。 | 一般的に利用されているシステム開発モデルについて、各手法の趣旨やメリット、デメリットを理解し、適切な手法を選択することができるか。 表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発において、どのモデルで開発を進めるかを、主体的に考え、思考することができるか。 | ○ | ○ | ○ | |
| | 2節 アルゴリズムの基礎 | ・情報システムの開発の中でのプログラミングにおいて、コンピュータに指示を出すための手順であるアルゴリズムについての基礎的な技術や、プログラミングに必要な関連する知識、技術を身に付ける。 | アルゴリズムを表現するための流れ図について、問題解決のためにその技術を利用することができるか。 アルゴリズムの各種基礎的な考え方を理解しているか。 表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用して、主体的にアルゴリズムを表現することができるか。 | ○ | ○ | ○ | |
| | 3節 情報システムの開発演習 | ・表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用した簡易な情報システムの開発を通して、企業活動の改善を科学的な根拠に基づいて、主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に付ける。 | 企業活動が抱える課題を現状分析し、表計算ソフトウェア、あるいはデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用して、主体的かつ協働的に取り組み、その技術を身に付けているか。 表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの連携処理を理解し、情報システムに組み込む技術を身に付けているか。 | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | | ○ | ○ | ○ |